

平成26年度 施策評価シート（評価対象：H25年度）

【1. 施策名】

| | | | | | |
|-------|---|------|--------------|-------|--------|
| 施策コード | 111-03 | 基本施策 | 子育て・子育て環境の整備 | 所管部局 | こども未来部 |
| 施策名 | 社会的援助を必要とする児童・家庭への支援 | | | 主担当課 | 子育て支援課 |
| | | | | 関係部局課 | |
| 施策の目標 | 母子・父子家庭やDV被害者家庭などに対する自立支援、児童虐待防止対策などにより、子どもの健全育成と生活の安定を目指します。 | | | | |

【2. 施策に取り組む理由】

| |
|--|
| 施策目標に対する市民ニーズの傾向及び、施策目標の達成に向けた市の役割など |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭の増加及び核家族化の進行等により、身近に相談相手がいない人が増えてきており、また、DV相談や、児童虐待の相談も増えてきている。これら母子・父子家庭やDV被害者家庭などに対する自立の促進のため、社会的・経済的支援や相談体制の充実を図る。 ・保護者などへの身近な相談・支援体制の整備などにより、子育ての孤立化を防ぎ、児童虐待の防止と、早期発見・早期対応を図る。 |

【3. 施策指標】

| 施策指標（成果を示すもの） | 単位 | 基準値 (H22) | 実績 | | | | | 目標値 (H28) |
|---------------|---|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|--------------|
| | | | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | |
| 家庭児童相談員の配置 | 人 | 2 | 2 | 2 | / | / | / | 3 |
| 指標の定義 | 目標値のねらい（設定根拠・算定方法） | | | | | | | |
| 家庭児童相談員の配置数 | 子育て支援課 1名→2名 厚生課篠ノ井分室 1名 | | | | | | | |
| 施策指標（成果を示すもの） | 単位 | 基準値 (H22) | 実績 | | | | | 目標値 (H28) |
| 女性相談員の配置 | 人 | 2 | 2 | 2 | / | / | / | 3 |
| 指標の定義 | 目標値のねらい（設定根拠・算定方法） | | | | | | | |
| 女性相談員の配置数 | 子育て支援課 1名→2名 厚生課篠ノ井分室 1名 | | | | | | | |
| 25年度の取組内容実績 | 相談業務に必要な資格や経験を有する職員を相談員として配置し、国の動向を注視しながら、個々の相談者の状況に応じた指導及び支援を行った。 相談員の増員については、引き続き要求を行っている。 | | | | | | | |

【4. 総合評価】

| | |
|--|--|
| 総合評価 （目標値に向けて） | 一部に努力を要する |
| 評価の理由・説明等 | |
| 適応性 市民ニーズや社会経済状況の変化に柔軟に対応しているか | 国のひとり親家庭等に対する施策や、関係法令の改正等の動向を把握するとともに、様々な背景を持つ家庭からの、多種多様な相談に対し、必要な指導及び支援を行なっている。 |
| 達成度 施策の目標達成に向けて順調に進んでいるか | ひとり親家庭の増加及び核家族化の進行などにより相談件数は増えているが、相談員数は変わらず、相談員及び担当職員の負担が増えている。 (母子相談：1,583件⇒1,518件、女性相談：978件⇒1,230件、家庭児童相談：1,525件⇒1,591件) |
| 事業の成果等 施策を構成する事務事業は目標を達成しているか | ひとり親家庭やDV被害者家庭などに対する指導及び支援に関しては、関係機関との連携・協力により、必要な対応がされているが、ひとり親家庭の経済的支援に関しては、国の制度改革の影響もあり、やや後退した状況となっており、現行制度の中での支援の充実を図る必要がある。 |

【5. 今後の展開】

| 課題 | 課題解決に向けた具体的な取組 |
|--|---|
| 1 女性相談や家庭児童相談の件数が増加してきているとともに、相談内容も複雑多様化してきており、相談に時間がかかるとともに、職員にはより高い専門性が求められている。 | 専門性を持った相談員の増員等、相談体制の充実を図る。 |
| 2 母子寡婦福祉資金貸付金の貸付件数や母子家庭等自立促進対策事業の利用件数が減少しており、経済的支援が低下している。 | 家庭状況に応じた支援となるよう、ひとり親家庭への効果的な支援方法について、相談者とともに検討する。 |
| 施策展開の方向性 (H26年度以降) | <ul style="list-style-type: none"> 相談員の増員等、相談体制の充実を図るとともに、関係機関との連携及び情報共有の推進を図る。 ひとり親家庭への支援施策の改正等、今後の国の動向を注視しながら、ひとり親家庭に対し適正な各種支援策の情報提供及び指導を行い、自立促進を図っていく。 |

【6. 施策を構成する主な事務事業】

| 番号 | 事務事業名 [事業区分] 担当課名 | 事務事業の状況 | | | | | | | | | |
|----|--|--|-----|-----|-----|-----|---------------------------------|--------|--------|--------|-----|
| | | 事務事業の概要 | | | | | 事業の取組実績・成果 | | | | |
| 1 | 家庭児童相談員配置 [サービス提供事業] 子育て支援課 | 事務事業の概要 | | | | | 事業の取組実績・成果 | | | | |
| | | 長野市福祉事務所の家庭児童相談室において、家庭児童相談員が各種家庭児童相談に応じている。(保育家庭支援課1名・厚生課篠ノ井分室1名) | | | | | 保育士の資格を持ち、知識・経験のある嘱託職員を配置できている。 | | | | |
| | | 事業の分析結果 | | | | | 年度別事業費(千円) (H26は予算額) | | | | |
| | | 達成(進捗)状況の評価 | 必要性 | 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 今後の方針 | H23 | H24 | H25 | H26 |
| | B | A | A | B | A | 拡充 | 20,450 | 27,981 | 27,545 | 27,746 | |
| 2 | 国補・女性相談員配置 [サービス提供事業] 子育て支援課 | 事務事業の概要 | | | | | 事業の取組実績・成果 | | | | |
| | | 女性相談員(保育家庭支援課1名・厚生課篠ノ井分室1名)が、各種女性相談に応じている。 | | | | | 相談業務に有効な資格や経験を持った嘱託職員を配置できている。 | | | | |
| | | 事業の分析結果 | | | | | 年度別事業費(千円) (H26は予算額) | | | | |
| | | 達成(進捗)状況の評価 | 必要性 | 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 今後の方針 | H23 | H24 | H25 | H26 |
| | B | A | A | B | A | 拡充 | 16,092 | 16,983 | 16,724 | 16,853 | |
| 3 | 母子相談員配置 [サービス提供事業] 子育て支援課 | 事務事業の概要 | | | | | 事業の取組実績・成果 | | | | |
| | | 保育家庭支援課及び厚生課篠ノ井分室に母子自立支援員を1名ずつ配置。 | | | | | 相談援助業務経験のある者を配置している。 | | | | |
| | | 事業の分析結果 | | | | | 年度別事業費(千円) (H26は予算額) | | | | |
| | | 達成(進捗)状況の評価 | 必要性 | 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 今後の方針 | H23 | H24 | H25 | H26 |
| | B | A | A | A | A | 継続 | 4,324 | 4,341 | 4,344 | 4,321 | |
| 4 | 母子寡婦福祉資金貸付金 [内部管理的事業・その他] 子育て支援課 | 事務事業の概要 | | | | | 事業の取組実績・成果 | | | | |
| | | 母子及び寡婦家庭の経済的自立の助成と生活意欲の助長を図り、併せてその扶養している児童の福祉増進を図るため、貸付事業を行う。 | | | | | 貸付件数が、減少傾向にあるものの貸付事業は法令により継続する。 | | | | |
| | | 事業の分析結果 | | | | | 年度別事業費(千円) (H26は予算額) | | | | |
| | | 達成(進捗)状況の評価 | 必要性 | 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 今後の方針 | H23 | H24 | H25 | H26 |
| | C | B | A | A | A | 継続 | 26,551 | 18,916 | 16,549 | 32,694 | |

